

●尖閣郡島事情

尖閣郡島の八重山列島の一にして從來魚釣島と稱する無人島なり之れより東北に拾六海里を隔て久場島と稱する一島あり海圖に低牙吾蘇島と

記せり何れも異名同島なるべしと云ふは其の詳を待て此處に拓殖事業を企圖し其監督として尾瀧延太郎氏の漁農夫州余命を引連れ那覇港を出帆したるは本年五月二十四日近頃同氏より黒川屬に宛通信の要領を得たり該島の状況を窺ふに足るべき又付左に之を掲ぐ

尖閣郡島は數個より成れる島嶼にして東經百二十四度四十分北緯二十五度五十分位せる東支那海中の小群島なり其島大なる者は周圍凡そ二里高サ一千百八十一フートニ達し釣魚島(ホアソビス)と稱し之れに亞く者は周圍二里高サ六百フートあり黃尾島(チャウス)と云ふ是れ實に予が今回船より放棄せられたる無人の孤島なり當島の南北に長く東西に短くして恰も隨圓形をなし圍らずに岩石を以てし島中到處に巖を累ね既足歩行すべき處あり然れども山嶺及山腹に數ヶ處の大凹處あり底は平坦にして石なく且極めて肥沃なる黒色土なり此土の數百年來鳥糞と混交し殆んど人工肥料の如し草木蔚蒼其重なる樹木は久場樹、青桐、籐、菘等の類にして久場樹の如きは長さ拾八九間廻り五六尺又至るものあり當島は四圍巖石屹立し恰も鋸齒の如く港灣の船を寄する處あり然れども天恵に西岸に當り缺状の一大凸處あり此は天然の良港にして水深二三の暗礁を除去すれば容易に五六十噸の船舶を容るゝことを得へし從來渡航したる者の皆此海岸に住居を構へ吾等も茲に居所を構へたり氣候は渡航後日も尙淺ければ未だ判明せざれども沖繩本島より暑きを覺ゆ(寒暖計破損して温度明かすを得ず遺憾とす)未だ各郡島皆跋涉せざるを以て探檢の上后日更に報告する處あるへし云々

1898 7.17
(三) R

1898年07月17日